

NRT、鹿児島学習定着度調査、全国学力・学習状況調査に向けた具体策

(1) いつ

- ◆ **正課授業**・・・国語(週5時間)担任指導  
 社会(週2～3時間)担任指導  
 算数(週5時間)担任指導 **\*少人数指導(学年運用)**  
 理科(週3時間)専科指導
- ◆ **朝の学習**

曜日	月	火	水	木	金	土
8:25～8:30	移動					
8:30～8:45 (15)	①全朝 ②学朝 ③⑤チャ ④音朝	仲良し 読書 (20)	<b>チャレン ジタ イム</b> (20)	仲良し 読書 (20)	仲良し 読書 (20)	仲良し 読書 (20)

【改善案】

曜日	月	火	水	木	金	土
8:25～8:40 (15)	①全校朝会 /学年朝会 ②③仲良し読書 ④ハート フル	<b>ベーシ ック タイム</b> (15)	仲良し 読書 (15)	<b>ベーシ ック タイム</b> (15)	仲良し 読書 (15)	朝なし <b>1校時 パワーア ップタイ ム</b> (45)

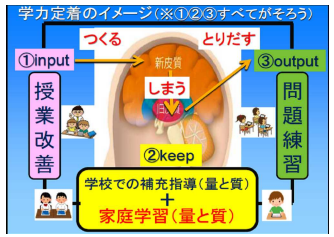
R4～継続 \* 火・木曜日のベーシックタイム→Keep主に漢字、計算、定義等  
 R4～継続 \* 土曜日1校時のパワーアップタイム→Output主に問題練習

**【効果的な活用方法】**

- ※基礎基本の定着等を図る場合  
→アナログを活用した学習
- ※定着の確認、習熟を図る場合  
→デジタルを活用した学習

具体的内容、イメージ等

- ◆ 小学校専科指導加配(1)
- ・理科専科(4,5,6年)
- ◆ 定数専科(2)
- ・音楽専科(3～6年)
- ・R4英語専科(3～6年)
- ※ **R5新設：算数科少人数指導3,4年(3クラス4展開)＋デジタルドリル**
- ◆ **学習指導**



【子ども・教科・学級レベル】学習課題の重点の置き方

課題の種類	【基礎・基本】 読み・書き・計算等の 知識・理解・技能等 の関与(主に知識)	【応用力・活用力】 自ら考え力 思考・判断・表現 の関与(主に活用)	【その他】 家庭・地域との連携 学校の教育連携等
上位層 子ども ・教員 ・学校	○	◎ 重点	○ ◎ 重点
中位層 子ども ・教員 ・学校	◎ 重点	○	○
下位層 子ども ・教員 ・学校	◎ 重点	◎ 重点	○

- ◆ **土曜授業の学力補充指導**(第2土曜日：年9回 3時間のうち1時間)  
 R4～継続 \* 1校時に全学年で実施+3年生以上でデジタルドリル活用  
 R5～新設 \* 全学年で「ナビマ」「タブレットドリル」と組み合わせた活用

◆ **アナログによる学力補充にデジタルを組み合わせさせた指導体制づくり**

- ◆ **長期休業中の希望者への個別の指導**  
 \* 職員研修→全学級で共通指導(理科教室、絵画教室、作文教室など)をして出品する。  
 R4～継続 \* **タブレット端末持ち帰り(調べ学習とデジタルドリル)継続**

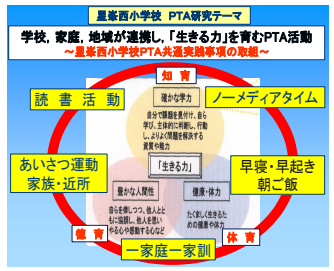
- ◆ **各教科で出品するコンクールを絞る。**
- ◆ **指導計画と関連付ける。**

◎ 家庭、地域との連携(家庭学習の確保と習慣化)

R3～家庭教育力アップ共通実践事項ノーメディアタイム、早寝早起き朝ごはんの取組によって家庭の教育環境の改善・向上を目指す。

◆ **家庭学習目安時間を確保するための手立て**

既存：家庭学習目安時間：学年×10+20分確保と目標達成率の把握  
 学校評価Googleフォームによるアンケート集約→学級PTAでの協議、  
 結果データのフィードバック→保護者の理解と協力を得るシステム



**ノーメディアタイムの取組(○中、○小も)**

○小・中学校家庭学習の目安時間

○学年×10+30分(読書除く)

1年生40分+20分 2年生50分+10分  
 3年生60分 4年生70分  
 5年生80分 6年生90分  
 ※中1:100分 中2:110分 中3:120分

**関連**

家庭学習60・90(ろくまる・きゅうまる)運動・・・県P連の取組

【平日にスポーツ・習い事等をしている児童生徒の場合】  
 放課後から就寝までの過ごし方シミュレーション

【スポーツ指導者へのお願い】  
 ・練習日(休養日含む)の厳守  
 ・17時からスタート  
 ・19時から終了、帰宅

【保護者へのお願い】  
 ・夕食、風呂までの時間等(19:30)  
 ・勉強を始める時刻(20:30)  
 ・読書時間(22:00)  
 ・3カ所まで保護者から子どもへの声かけを確実にしてください。  
 ※ノーメディアタイム

【朝寝前へのお願い】  
 ・読書(22:00までに)  
 ・遅寝遅起(7:00までに)  
 ・朝食を食べさせる  
 ・家族(8:00までに)  
 ※家庭・早起き朝ごはん

※ R3,7月から家庭教育力アップ共通実践事項として本格的にスタート

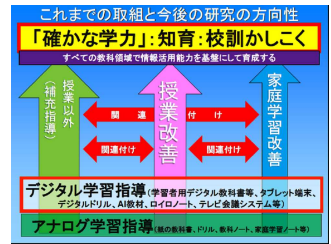
- ・ノーメディアタイム
- ・早寝早起き朝ごはん

(2) 何を ※Web問題, 学習プリント問題 R4.1月～デジタルドリル導入

- 国語 (読むこと, 書くこと, 話すこと・聞くこと) →過去問題, アシストシート等 (漢字, 文法) →これまでに習った漢字, 文法問題
- 社会 (学習の要点まとめ, 自作問題による練習)
- 算数 (テスト結果に基づく個に応じた問題練習, ドリル)
- 理科 (学習の要点まとめ, 自作問題による練習)
- \* 昨年度までの鹿学定過去問題 (12月中旬実施予定)

R4～継続: デジタルドリルの有効かつ効果的な活用方法  
アナログ学習指導 (計算ドリル帳、漢字ドリル帳) と  
デジタル学習指導の有効な組合せ方等について実践を通して検証 (中学年以上)

R5～新規: 低学年におけるデジタルドリルの効果的な活用法の検証



アナログ学習とデジタル学習の重点の置き方(目安)

	【低学年】 1年生 2年生	【中学年】 3年生 4年生	【高学年】 5年生 6年生
デジタル学習指導	2	4	6
アナログ学習指導	8	6	2

タブレット端末の活用程度  
家庭への持ち帰り

学校で慣れ親しむ(低学年への持ち帰り不可) / 学校・家庭で使いこなす(家庭への持ち帰り可)

(3) どのように (指導方法, 分担等)

- 正課授業 (国, 社, 算, 理, 英: 担任及び専科による指導)  
R4～継続: 英語専科新設→ヘッドセット、学習者用デジタル教科書活用  
R5～新規: 3, 4年算数科少人数指導+タブレット端末の活用  
R5～新規: 算数科以外の教科での反転授業←家庭学習課題
- 朝学習: ベーシックタイム (担任, 専科などTT体制)  
R4～継続: 毎週火曜日 15分×35回=525分  
R4～継続: 毎週木曜日 15分×35回=525分 計1050分
- 土曜日1校時: パワーアップタイム (担任, 専科などTT体制)  
R4～継続: 第2土曜日 45分×9回=405分 計405分

\*アナログとデジタルを組み合わせた指導方法 (例)

- 少人数指導、TT指導+デジタルドリル活用の組合せ
- 家庭学習ノートの復習→デジタルドリル活用の展開
- テストプリントの復習→デジタルドリル活用の展開
- デジタルドリル問題の自己選択 など

(4) その他

R3～○ 学力向上委員会

学期1回から職員会議後に月1回に変更  
→指導状況とテスト結果報告、家庭学習課題内容等の情報交換  
学力検査結果の分析及び今後の対策等の協議、共通理解等

R3～○ 学校における教育活動, 教育環境, 掲示等の充実

→家庭学習ノートの全学年掲示→模範的な家庭学習ノートを校長室前に常設展示。チーム学校で低中高学年の系統的な指導をそろえて取り組んでいることを保護者、地域、来校者等に示す。

※教職員はR5教育課程に家庭学習の模範的例を入れて共通理解する。  
保護者へは第1回PTAの際に学級経営方針とともに各学年の家庭学習レベルを説明する。

継続○ 学習のしつけ(発表話型, 挙手の仕方, 聞き方, 姿勢など)の徹底  
授業の基盤となる学習のしつけを学期始めに徹底する週間を設定

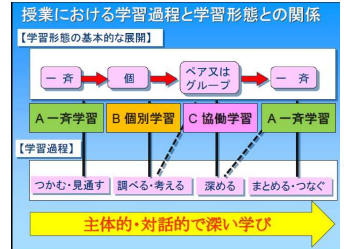
継続◎ 家庭学習ノートの様式の見直し※煩雑にならず使い勝手がよいもの  
→今年度の学力の実態に基づき、定着率の低い知識・理解事項については、年間を通じて積み上げられるような様式に見直す。

(例)ローマ字が書けない→毎日ローマ字を書くための罫線枠を追加  
→系統性を踏まえた様式に見直す。

(例)保護者の見届け枠、使った漢字数、友だちのよさを書く枠  
ノーメディアタイム、早寝早起き朝ごはん等の振り返り枠

◆きめ細やかな指導体制

◆ PBL 型学習過程を基本等する授業づくり



◆ ID (インポートデータ)、エビデンスに基づく

学力向上策の分析・検証

◆系統性を重視した1年生から積み上げていく家庭学習ノート及びタブレット端末の活用

◆目安時間: 学年×10+20分の時間に適した分量のアナログ課題: 漢字, 日記, 宅習(3点セット)の課題とデジタル課題との組合せ

